

徳島県立三好病院が完成しました。



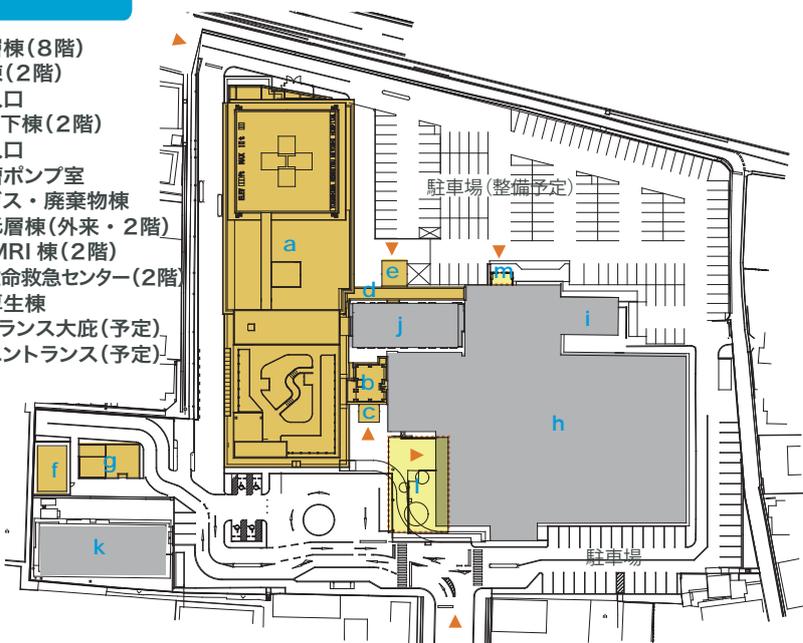
県産木材を利用した食堂



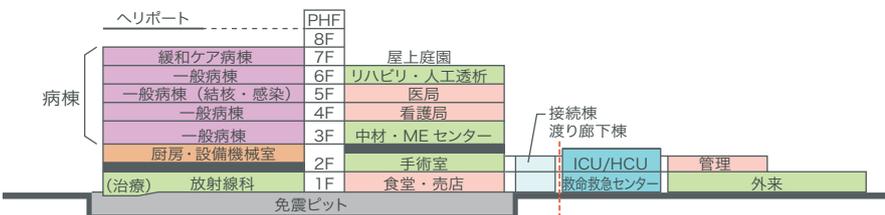
緩和ケア病室

PLAN

- a. 新高層棟(8階)
- b. 接続棟(2階)
- c. 夜間入口
- d. 渡り廊下棟(2階)
- e. 救急入口
- f. 受水槽ポンプ室
- g. 医療ガス・廃棄物棟
- h. 既存低層棟(外来・2階)
- i. 既存MRI棟(2階)
- j. 既存救命救急センター(2階)
- k. 既存厚生棟
- l. エントランス大庇(予定)
- m. 北側エントランス(予定)



配置計画



断面ダイアグラム

CONCEPT

四国中央部の中核拠点

県立三好病院は、徳島県西部圏域における中核医療施設として位置付けられ、その役割を果たしてきましたが、建物の老朽化に伴い、「耐震性・対災害性の強化」、「フルセットのがん医療施設の整備」、「人材育成環境の整備」を軸に四国中央部の中核拠点として計画が進められました。

高層棟の建替えにあたり、免震構造の採用、救命救急センターとの連絡に配慮した建物構成、感染病棟の専用動線の確保など、信頼性の高い病院施設とすることが求められました。

徳島らしい親しみやすさを

建物外装には、アルミルーバー手すり、鋼製縦庇、木調ルーバーなど様々な材を切り替え用いることで、ボリューム感を軽減するようデザインしました。

病棟からは、阿波池田の豊かな自然を望むことができます。緩和ケア病棟は、自宅のような設えに配慮し、快適な生活空間として計画しました。

内装には県産木材や、木調の仕上げ材を使用し、暖かみのある仕上げとしました。また、阿波藍の藍染をサインに用いたり、藍をアクセントカラーとすることで、清潔感と徳島らしい親しみやすさのある病院とすることを目指しました。



鋼製縦庇



藍染を使用したサイン

DATA

敷地面積	: 17,162.294 m ²
建築面積	: 2,769.805 m ² (今回工事部分)
延床面積	: 14,954.102 m ² (今回工事部分)
建ぺい率	: 35.98%(新高層棟竣工時)
容積率	: 113.42%(新高層棟竣工時)
構造・規模	: RC造(PRC造)、免震構造 一部S造地上8階、塔屋1階
最高高さ	: 40.75m
軒高	: 30.39m
主なスパン	: 6.0m×12.0m、9.0m×12.0m
設計期間	: 2010.12~2011.12
工事期間	: 2012.04~2014.03
病床数	: 210床 (新高層棟のみ) (うち緩和ケア20、結核8、感染6)

TOPICS



屋上庭園



屋上ヘリポート

緩和ケア病棟と同じフロアに屋上庭園を設けています。また災害拠点病院・ドクターヘリ着陸施設として、「飛行場外離着陸場」を整備しています。

▶ <http://www.nissoken.co.jp>